

教育経済建設常任委員会視察報告書

小 林 貴 浩

○埼玉県鴻巣市

学力向上の取組み及びICTの効果的な活用について

【所 見】

当時の市長の指示で、現行ICT機器が2020年八月に賃貸借期間満了となることを見越し、2018年から教育ICT環境の刷新を検討した。2019年九月に『鴻巣市学校教育情報化推進計画』を策定。この計画には、関係者全員の「新しい時代に生きていく子供たちのために」という熱い思いを込めて、教育ICT環境の刷新が実現したと聞いた。

二人のキーパーソンの存在と、現場で働く先生の深い理解の下で実現することができたと聞いた。二人の考えは、このタイミングで教育の情報化を進めなければあっという間に5年、6年と遅れてしまうという共通の危機感があったと聞いた。どこでも持ち運びができて用途を意識しないで活用できる環境を作り、先生の働き方改革を進めることで、生徒と向き合う時間を作ることが最大の目的と当時の担当者は豪語していたと聞いて、さすが先進地の意気込みは違うと感じた。

今後の課題として、デジタルシティズンシップ教育の推進の必要性について、ICTの推進やデジタル化がさらに進み、使い方をより理解して安全に健全に端末を使えるように指導教育を徹底することは現時点でも課題であり、今後も全中学校で授業実践していくそうである。今回の事例を聞いて、凄いと感じたのは、現場の先生のやる気、市の職員のやる気、市長のやる気、教育長(行政機関の方)を配置することにより、教育現場と行政の情報共有が図られ、最終的にスピード感を持って事業を推進することが出来たと感銘した。

本市の教育のICT・デジタル化の推進に必要な要素をたくさん学ぶことが出来た事業であり、本市も鴻巣市同様に生徒と向き合う時間をつくるための手段としてICTデジタル化の更なる推進に大いに参考になる視察であった。

○神奈川県小田原市

まちのコイン「おだちん」事業について

【所見】

令和2年、おだちんは、人と人をつなげるためのコミュニティポイントとして神奈川県の「つながりポイント事業」と連携して小田原市で展開された。

目的は小田原市が掲げる、持続可能な地域社会の実現に向けて、人の力に着目してより一層推進していく方針が国から評価され、SDGS 未来都市、自治体 SDGS モデル事業に選定された。おだちんは SDGS に関連した取り組みを行う場合に、お金で払うほどではないがお礼ができるコミュニティポイントである。

スマートフォンのアプリケーションを使って、スポットと呼ばれる店舗などと利用者の間でポイントをやり取りすることが出来る仕組みである。

当初、思い描いていたのは地域通貨のような地域経済活性化のための仕組みと考えていたので、環境問題 SDGS を地域社会で実践しながら意識の高揚を図り、若い世代や高齢者まで幅広く自分ごと化するためのきっかけに繋がることを目的とした事業と聞いて、大変驚いた。SDGS を自分ごと化するための体験事例＝もらう、あげる、おだちんは、法定通貨で価値化、表現できるものは取り扱わない。まちや人にちょっといいことをしたり、誰かと仲良くなるなど、お店でモノを売る・買うだけではない体験ができる仕組みであった。現在、登録利用者 4,210 人、登録スポット 116 者。メディア、ホームページ、SNS により周知し、利用者を中心に情報が広がっており、更なる飛躍が期待されている。面白いのは、地域以外の方も参加できて、貯まったポイントを他地区でも利用可能な点は創造性を膨らませる事業と感じた。

本市の SDGS に対する市民の意識感覚と大きく乖離していることと今後足利市が取り組まなければならない課題に向き合っている先進的事例と感じた。地元経済政策と絡めて SDGS の意識高揚を図ることが出来れば更に進化する事業になる可能性の高い事業であり、本市としても参考にすべき事業であった。